

**かにた婦人の村 従軍慰安婦鎮魂祭**に参加して

1965年に深津牧師がつくった、売春防止法の下、行き場のない女性たちの施設が千葉県館山にある。多くは何らかの障がいを持つ不運な女性たちであった。

かにた村で晩年をすごした城田すず子さんは、日本軍従軍慰安婦として台湾・サイパン・パラオを転々とした経験を手記に記し、戦地で亡くなった慰安婦のための碑を建立した。毎年8月15日の鎮魂祭は23回目を迎えた。

今年は、韓国・台湾・フィリピン・インドネシア・ドイツ・オーストラリアの被害女性・支援者と連帯して従軍慰安婦問題解決への努力を誓い合った。

日本では、従軍慰安婦制度をなかったとするような政治家発言が続いている。名乗りでた100人もの被害女性たちの証言を否定するなんてできるわけがない。10歳・12歳・15歳…で慰安婦にされた彼女達の苦しみを思うと、加害国・日本の女として、無関心ではられない。



**ケアタウンたかのす訪問**

7月7日・全国フェミニスト議員連盟夏合宿イン北秋田

住民が「安心できる老後を迎えたい」と行政に提言を行い、デンマークを視察し、グループ討議を重ねて創り上げた住民福祉として有名な、介護老人保健施設ケアタウンたかのす(1999年開設)。

広々としたガラス張りの全室個室の施設はうらやましい限り。介護職員は設置基準より多く、質の高い介護をめざしてきた。市長が交代し、合併を経て、運営するたかのす福祉公社も指定管理者として独立採算制へ移行。苦しい運営は続くが、今も、地域住民がボランティアとして関わり、視察の受け入れも担っていた。

老健施設と訪問介護、住宅改修、住居提供事業などが組み合わされて、「できる限り在宅で」をめざした北秋田の小さな町の福祉に学ぶことは多い。



中学生のための  
**「慰安婦」展**  
 日時：2008年5月25日まで  
 水～日 13時～18時  
 会場：女たちの戦争と平和資料館  
 3202-4633  
 JR高田馬場駅早稲田口から  
 バス「早大正門行き」で「西早稲田」下車徒歩2分  
 早稲田奉仕園内

**松戸市の男女共同参画事業**

8月21日  
 松戸市女性センター

男女共同参画推進計画を5年ごとに見直すため、市民・職員意識調査を実施。職員がアンケート項目も考え集計も行った。全庁の職員が協力とはすばらしい。機関紙を学校経由で配布したり、市民参加の協議会が小学生と保護者意識調査を行うなど、未来志向の取り組みに共感した。

**せの喜代の収支報告**

区議会議員には、議員報酬のほかに、政務調査費(会派ごと、一人月8万円、研究研修費・会議費・調査旅費・通信運搬費・資料作成費・資料購入費・広報費・広聴費)が支給されます。また、議員枠として審議会に参加(報酬一回6900円から18000円)します。しかし、審議会に参加するのも、議員の仕事のうちであり、報酬の二重取りと考えられます。本来、議員は議会で発言できるのですから、審議会はより多くの区民や学識経験者の参加が望ましいと思います。

		月	期末報酬合計(2006年度)
収入	議員報酬	601,000	3,050,074
	共済掛金	87,000	152,400
支出	所得税	31,200	409,806
	特別区民・都民税	50,975	
	国民健康保険料	62,000	
	国民年金	14,100	
	活動費	150,000	450,000
	選挙積立金	30,000	90,000
	手取り	175,725	2,185,436

**読者から**

- ゴミ減量が地球を守るとして実行しているのに、プラスチックを燃やすとは、信じられない。化学物質、ダイオキシン、地球温暖化などを考えたら、絶対に燃やしてはいけない！(千)
- 格差・貧困を問う若者達の運動が報道されている。黙してがまんはやめて、主張する気運を歓迎する(日)
- 地震に直撃された柏崎刈羽原発7機のダメージ全体像は未だ不明。電力供給も大切だが、安全を最優先する論議が必要。地盤のことを考えると「閉鎖」の選択も！夏のピーク時にあわせた電力供給体制も一考の余地がある。(田)

..... ひとこと .....

7月の参議院選挙では民主党が圧勝した。これまでの、軍備拡大・官僚・土建政治の流れが変わることを期待したい。また、市川房江さん以来42年ぶりといわれる無所属議員・川田龍平さんが当選。「いのちの政治を」「動けば変わる」という彼の訴えがさらに、市民の政治参加を前進させることを願う。

..... \*このニュースは、森林保護のため再生紙を使用しています。.....

瀬野 情報公開と市民参画をめざして

**せの喜代の区議会ノート**

2007・夏 第25号

区議会での会派は民主党・市民の会です

http://senokiyo.sakura.ne.jp/ ホームページは【せの喜代】で検索してください

〒116-0013 荒川区西日暮里2-13-8 TEL/FAX:03-3891-0203 E-mail: senok@kfx.biglobe.ne.jp

議員活動の広報費も含む政務調査費が月8万円に半減されました。「せの喜代の区議会ノート」は自分で印刷し、新聞折込や発送も減らして経費削減に努めます。毎号の購読をご希望の方はぜひご連絡ください。ホームページは随時更新していますので、こちらもぜひ、ご覧ください。

**第2回定例区議会から**

**議会出席手当 1日 3000円 ついに廃止**

私が議員になった時から「議員報酬の二重取りになる」と批判してきた議会出席手当(議会に出席するだけで3000円)がやっと廃止になりました。

しかし、民主党・市民の会を含む11人の議員で、区外視察などの経費は現行規定に準ずるといふ条例案を提案したのに対し、自民党、公明党の20人は、宿泊を伴う視察経費のみ支給という条例案を提案し可決してしまいました。交通網の発達した現在、民間では日帰り出張はあたりまえ。宿泊したら経費を税金で出し、日帰りは出さないのでは矛盾しています。昨年の震災対策特別調査委員会視察は名古屋でした。4時に防災センターの視察は終わり、次の日は自由視察。そこで、私は日帰りで戻りました。今回の条例改正では日帰りした私の視察費用は支給されず、宿泊した議員だけ費用が支給されることとなります。

**委員会視察のあり方を問う**

改めて、委員会視察のあり方を問うべきではないでしょうか。荒川区議会では恒例で、常任委員会2泊3日(一人10万円程度)、特別委員会1泊2日(一人7万円程度)の予算で視察を行っています。事前調査で何を調べたのか、わざわざ行く必要があったのか、成果をどのように有効活用したのかチェックが必要です。荒川区議会では、視察最終日を自由視察とすることがありますが(全国から議員特権ではないかと批判が集中)、その報告もしないですましている議員の意識も問われます。

23区でも、議会運営委員会や特別委員会の視察を廃止している議会もあります。「百聞は一見にしかず」ということわざはあるものの、情報化時代にふさわしい視察でありたいと思います。

**地震!!** 大丈夫?? 災害ボランティアに参加して

最近よく地震があると思いませんか。7月16日新潟県上中越沖地震はマグネチュード6.8・最大震度6強。古い木造家屋が倒れ、10人の高齢者が亡くなりました。

私は、7月30日 復旧当日の信越本線に乗って、柏崎ボランティアセンターに行ってきました。倒壊した建物があちこちにあり、道路も波打っていました。それぞれの家屋に「危険」「要注意」などの張り紙があり、ボランティアは家のかたづけが主でした。梁が落ち、本棚が倒れ、本が散乱した書斎の片づけを手伝いましたが、高齢女性の一人暮らしでは、寝るスペースを確保するのも大変だったようです。ガスの復旧がまだなので、自衛隊の入浴テントや炊き出しが活用されていました。何といっても柏崎は広々としていて、自衛隊の受入れや仮設住宅建設ができる土地がありました。「荒川区だったら」とさまざまな課題をつきつけられて帰ってきました。



## 食育推進への区民参画を

せの：健康のため、感謝のこころを育むため、日本の伝統を知るため、世界の様々な文化にふれるため、農業問題、環境問題を考えるため、など食育を通して、子どもからお年寄りまで学び、実践することは有意義である。なによりも区民が主体となった取り組みが必要。そのためには区民が参画する総合的な組織、学識経験者・専門家と意欲ある区民が議論を深める場として、食育推進懇談会の設置が必要ではないか。

また、保育士、栄養士、調理師や教員によって取り組まれているさまざまな事例を集め、区内外に紹介し、「食育の荒川区ここにあり」と情報発信したらどうか。

区：様々な機会を通して、食育の重要性について、区民の皆様の認識を更に深めたい。

## 高齢者の住まい 区の施策は？

せの：高齢者の入居を拒まない賃貸住宅の登録、高齢者向け住宅の供給、高齢者の資産活用（リバースモーゲージ）として、土地や住宅を担保にして生活資金の融資を受けられる制度の活用などの進捗状況は？区として情報提供し、相談窓口を設置すべきではないか。

区：新たな住宅マスタープランの中で、検討していく。

せの：療養病床の廃止計画がしめされ、このままでは4万人の介護難民がでるとされる。世田谷区は「在宅医療電話相談センター」を開始し、医師会との協力で、高齢者が安心して在宅で生活することができるよう、在宅医療のネットワークづくりや、在宅療養への支援策について協議する機関「医療連携推進協議会」を設置。医療ショートステイ事業で、在宅患者の医療ケアと急変時のベッドを確保する機能をあわせもったしくみを構築していくとしている。荒川区の取り組みは？

区：研究をしてみたい。



せの：いかにもやる気のない区のお返事がっかり。これでは安心な老後は夢のまた夢!!

### 事例紹介



#### 六日小学校の飯田先生の教育実践

18年間受け持ったすべての子どもが標準量の給食を残さず食べるよう指導してこられました。少しずつでいいから無理をしないでほめて伸ばす、自分で苦手なものを乗り越えることで、やればできるという自信につながり、学習面でも意欲と集中力があがり、どの子も家庭との連携で必ず乗り越えられるとのこと。



せの：全員食べ残し無しとは驚き！すばらしい！

## めざせ！ごみ減量

せの：日本には、1800基のごみ焼却炉があり、世界中の4分の3が集中しているという。焼却炉は、地球温暖化をすすめて、環境汚染を引き起こすなど、多くの問題があるため、世界は焼却炉を減らす方向に動いている。この10月からの分別ルール変更に伴い、廃プラスチックを燃やすことで焼却量が増え、さらに環境に悪影響を与える。だからこそごみの量そのものを減らすことが第一だと区民に周知徹底するべき。

区：あらゆる機会を捉えてごみの減量の重要性について周知する。

せの：区報清掃特集号には「ごみ減量」の一言もない。情けないなあ。

せの：荒川区民のごみ量は調布市の1.5倍。一基の焼却炉停止は600億円の節約になる。徹底したごみ減量で焼却炉を停止した横浜市に習い、焼却炉停止に向けた提言を行うべきではないか。

区：清掃工場のない当区が更に一層のごみ減量を実現した後に、他区の状況も踏まえ、23区全体で検討する。

せの：ごみ減量の目標も決めず、ごみ問題への取り組みの弱い区の姿勢は疑問。町田市は、「町田ごみゼロ市民会議」と共に「燃やさない・埋めない・作らない」とごみ減量に取り組んでいる。先進事例に学びたい。

## フィンランドの教育に学べ



OECD（経済協力開発機構）が15歳を対象に行った国際学力テスト調査で、トップクラスだった日本が転落。そこでゆとり教育の見直しがいわれるようになったが、このテストで世界一となっているフィンランドの授業時間は、世界一短い。テストで順位などつけず、能力別クラス編成を行わず、子ども同士が教えあう教育を実践している。同じレベルの子どもがいるクラスで学ぶよりも違いのある子どもどうしの学びあいが、成績のよい子にとっても、よくない子にとっても、より能力を高めるといえる。教師は上からの指導ではなくサポート役。助け合いの教育であるため、成績の悪い子の割合も少ない。いじめや不登校もないという。

競争ではなく「協同学習」で、自ら学ぶ意欲を育み、子どもの自主性を伸ばすフィンランドについての見解を問う。

区：国際的にも高い評価を受けているフィンランドの教育から学ぶべきところが多々ある。自主的な学習意欲を喚起し、自己肯定感を育むような学校教育を積極的に進めたい。

せの：区のすすめてきた学力テストや習熟度別学習の成果をいま一度点検する時期にきているのではないだろうか。

## 障がい者差別をなくす条例の制定を

昨年12月、ニューヨークの国連本部において、障がい者権利条約が加盟192カ国の全会一致で採択された。

障がい者権利条約は、実質的な平等を保障することをめざし、障害を理由に雇用や入学を拒むことなどを禁止するとともに、受け入れ環境を整備するなどの必要な変更・調整、すなわち合理的配慮により平等に扱うよう求めている。

昨年10月、千葉県で「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」が成立。

公募委員を含む研究会で800を超える差別事例を題材に解決方法を検討。各地でタウンミーティングを重ね、条例案を創り上げ、議会で何度も議論を重ね、多くの人々が傍聴する中、条例は成立した。条例制定の過程が重要であり、条例ができたからすぐに差別がなくなるわけではないが、その意義は大きい。荒川区でも着手したらどうか。

区：「荒川区障がい者プラン」の施策を実現する中で、障がいのある方に対する差別をなくす取組を推進していく。

せの：条例はなくても雇用や入学について、受け入れ環境を整備するなどの必要な変更・調整、すなわち合理的配慮を行うべきという趣旨を行政として真摯に受け止める必要がある。

### 本会議討論から

#### ふれあい館建設発表時に学童クラブ設置計画も公表を

学童クラブのある西日暮里ひろば館を廃止し、西日暮里ふれあい館をあらたに建設するにあたって、西日暮里学童クラブをどうするか、当事者に説明がなく、「学童クラブはなくなるのか」と保護者に不安が広がった。六日小に移転する旨を早く伝えるべきだった。一つの事業開始に当たって、関係者への情報公開を徹底して欲しい。

せの：部署が違うから公表できないと区はいう。おかしい！

#### ワンルームマンション条例制定へ

ワンルーム建設ラッシュが荒川区に押し寄せ、区要綱を無視した建設業者が住民との摩擦を引き起こしている。区としても、拘束力のある条例を9月議会で制定することを約束。

しかし、着工されてしまったマンションへの管理指導徹底も課題。私がマンションの高さ制限について質した2年前、区は地区計画で高さ制限は可能と答えたが、実質対応は進んでいない…。狭い土地に突然マンション建設が通知され、住民は戸惑うばかりだ。

都心と地方の格差が顕在化した今、都心集中促進の国策は見直して欲しいものだ。

